

深刻度増す市民の暮らし、最大限の支援を！

「必要なものがあれば、基金はちゅうちょなく使う」と財務部長が答弁

10月31日は臨時議会でした。議案は今年度上越市一般会計補正予算の1件のみでした。

今回の一般会計補正予算は、歳入歳出予算総額に15億440万円を追加するものです。主な内容はエネルギー、食料品などの物価高騰対策です。生活困窮世帯や子育て世帯、中小企業者や農業者などの負担軽減のために、国の交付金などの活用や財政調整基金（市の貯金）の取り崩しによって各種支援を実施するものとなっています。この他、新型コロナ対策としてのワクチン接種に必要な経費も増額計上されました。

支援の主な内容ですが、①令和4年度の住民税非課税世帯に対し、1世帯当たり5000円の灯油購入費助成金を支給する、②均等割のみの世帯に対し、1世帯当たり2万5000円の価格高騰緊急支援給付金を支給する、③子育て世帯への支援として、18歳までの児童1人当たり1

万円を支給する、④中小企業者や農業者などを対象に、光熱水費、燃料費及び原材料費の一部を支援するために、エネルギー価格等高騰支援金を創設する、となっています。

私は総務常任委員会での審査で、財政調整基金の見通しと今後の財政運営について質問しました。このなかで財政調整基金残高は今回の補正予算の成立後で、94億5961万1000円になることが明らかになりました。これを踏まえ、私は、「ここにきて市民の暮らし（と営業）の深刻度が増している。そういうことを考えたら、（財政調整基金を取り崩して）最大限のこと（支援）をやっていかなければならない。いま財政計画の見直しが行われているが、市民が困っているところは最大限助けるという構えが必要ではないか」と訴えました。

これに対して柳沢財務部長は、「必要な施策は何か、何が求められているかと



いうことを議論した中で、国庫の制度を利用しながら、不足分を財政調整基金で補っていくということは、この間の姿勢としてずっと貫いてきていることだ。財政調整基金をどれくらいまで使っていくか、市民の事業のためにどれくらい崩していくかというのは、まさに、今、議論しているところだ。必要なものであれば、躊躇（ちゅうちょ）なく使う」と述べました。重要な答弁だと思います。



「ほーりーふあーむ」の堀口典幹
上越市の農林水産フェスティバルで、「食と農の魅力再発見」をテーマにしたパネルディスカッションが行われました。
このなかで久保田農園の久保田喜隆さんは、「地域農業のいい点は、生産者と消費者がとても近いことだ。生産地から離れれば鮮度は落ちる、価格も高つく。その商品を誰がどのように作っているかはSNSを使ってPRしている」と発言しました。

現場で頑張る4人が食と農の魅力を語る



【メマツヨイグサ】。アカバナ科の2年草。漢字で「雌待宵草」と書きます。別名は「アレチマツヨイグサ」、荒地でもよく見かけるものだから、この名前が付けられたのでしょうか。花期は一応、6月～10月とされていますが、雪の降るまであちこちに咲いています。花言葉は「無言の恋」「ほのかな恋」です。写真は11月2日、吉川区赤沢にて撮影しました。

さんは、「畑だけでなく山でもイベントやらなければいけない。そこで美味しいものを食べて、子どもも楽しめるものを入れる。子どもたちは忘れないだろう。子どもたちにタネを蒔いていきたい」とのべました。
「こはん屋カフェCOM&CO代表の太田和枝さんは、「30年ほど前から百貨店などでコメを売ってきた。最初は30キロの袋がよく売れたが、その後、10キロになり、いまや売れるのは2キロの袋だ。コメの消費が激減してきている。それが米粉に走った理由の一つだ。野菜は生が美味しい。ほんのちよっとのお塩とオリブがあればいい」とのべていました。
あるるん畑店長、亦野潤一さんは、「一年中、いろんなものが自由に食べられるのはいいが、一番おいしいときに一番おいしく食べる」旬を忘れてるのが怖い。冬にも旬がある。子どもたちには地域の食の面白さを知ってもらい、子どもが「オレ、こんなこと知っている」と親に伝えられるようにしていきたい。食の楽しみは親子で大事な」と主張していました。
料理研究家の高橋典子さんの話を含め、とても勉強になりました。

はしづめ法一の活動レポート

No.2084 2022.11.6

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznysg_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七三一回

ナツハゼ

もう六〇年ぐらい前になるでしょうか、旧吉川町尾神の蛭場地内の「むこう」（屋号）の家のそばの土手で、甘酸っぱい黒い実を食べたことがありました。

実は、高さが一メートルにも満たない、何本かの細い木に生（な）っていたように思います。大きさは、直径四ミリほどの小さなものでした。たしか、そばには半鐘を下げた木の柱が立っていました。

遠い記憶です。すっきり忘れていたのですが、先日、柏崎市在住の友人であるSさんのフェイスブックへの投稿を見て、この実のことを思い出しました。Sさんは「ナツハゼという小さな木の実を大量に入手したので、ジャムをつくります」という発信をしていました。

その翌日の朝、散歩していて、まさかと思いましたが、偶然にも、Sさんがジャムをつくることになったのと同じような実が目前の土手の木の枝からいくつも垂れ下がっていたからです。

おっかなびっくりで、ひと粒だけ口に入れてみました。子どものころ食べた実と太さはほぼ同じです。ただ、子ども時代に味わったものよりも酸っぱく感じたので、同じだとは自信を持って言うことはできませんでした。むしろ、初めて出合った木の实のように思えました。

Sさんが発信した実と同じかどうかについて分からなかった。スマートフォンで画像を示し、電話で確認すると、Sさんは、「九九%間違いない」と言われました。やはり、ナツハゼだったのです。

この日は大島区菖蒲の飯田邸にて「新そば祭り」があり、開始時間前に会場に着いたのですが、そこで吉川区の平地地域に暮らしているOさん夫婦と出会いました。

朝の散歩で見つけたナツハゼの実を持参していましたので、Oさん夫婦に見てもらったら、「子どもの時分、手でこぐよう

にしてもいで食べたもんだわね。アタジキだね」と言われました。正式名称はナツハゼですが、私たちのところでは、「アタジキ」などと呼んでいるようです。

その後、吉川区の勝穂地区でSさん夫婦のところを訪ね、お茶飲みをしたときも、この実を持って行きました。

テーブルの上に小さな実を出したら、二人ともすぐに反応し、「これはアタジキだ」「おらったりじゃ、アタッパジキとも言ってたよ。さんざ、食べたこて」「おらは、チンボイ、スイッカシ、食べて生きてきた」などと言って賑やかになりました。

こうなると、もう止まりません。この小さな実を自分で食べるだけでなく、より多くの人に食べてもらって、面白い思い出話をたくさんしてもらおうと思いました。

数日経って、私は、買い物をしたときに使うビニール袋を持参し、近くの山で一時間近く、この実を収穫しました。二〇分ほど採り続けた段階で、袋の中身を確認しようとして、うっかりこぼしてしまうというハプニングがありました。幸いにも次々と新しいナツハゼの木を見つけ、全部で一升マスにいっぱいくらい集めました。

集めた実は十数人の人に分けました。ほとんどの人はこの実を知っていて、「これ、酸っぱかったよね」などと言い、とても懐かしがって食べてくださいました。

あとは、私が子ども時代、蛭場で食べた小さな黒い実と同じかどうかです。先日、介護施設に入所している「むこう」のお父さんに確認してもらったことにしました。

施設の玄関ドアのところからガラス越しにナツハゼの実を見てもらったら、お父さんは指で丸印をつくってくださいました。私が子ども時代に食べた黒い実はやはり、ナツハゼだったのです。私はうれしくなり、手元にあったナツハゼをまた一個口に入れ、ゆつくりと味わいました。

大島区で「きらきらフェスティバル」

大島区のふれあい館では10月30日、「大島きらきらフェスティバル」が行われました。保育園児から90代の高齢者までの市民が絵画や写真、染め物などいろいろな作品を出展していました。イラストは大島保育園の児童の様子を描いた大きな絵を観る人たちを描きました。

あちこちで小豆の選別

10月27日は晴れ。もうけもんの日でした。イラストは大島区の細越で小豆の選別作業をしていたお母さんです。



この時期、直江津の朝市では干し柿づくりを実演して販売しているお店があります。この様子は朝市でおなじみの風景になっています。このほか、漬物や秋野菜なども並んでいますよ。ぜひ、お出かけください。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月26日(水)	11月2日(水)
上越南消防署	0.053	0.047
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.040	0.053
頸南消防署	0.060	0.053
東頸消防署	0.047	0.047
名立分遣所	0.050	0.060
高士分遣所	0.053	0.053